

Watching Carefully

# FACTORY 10th Anniversary

@ [世界] WORLD

取材・文/トリアウト 撮影/畑中勝如

# 祝十年は、 二巡目の スタートラインが。 『FACTORY』 という存在が、 やっつけてきたこと、 考えていること。

イベントを取り仕切ったのはFACTORYの谷口さん。「社長がはじめてスタッフに任せてくれたイベントですから、超ハッキリしてます！」。全てが彼を経由して執り行われた

ヨーダマイク&マック、そしてDJヒサターカの三者三様ストロークでステージを盛り上げるHIPHOPグループ、JUNK FOODもステージを温め…。いや、熱くした

国内トップクラスのヒューマンビートボックス「AFRA & INCREDIBLE BEATBOX BAND」を筆頭に、錚々たるメンツが [世界] WORLDを舞台に祝言ビートを響かせた

[世界] WORLDのレギュラーイベント「ESSENTIAL」からDJ SANCON。西日本を代表するクレバーなDJプレイとの関わりからも、同社の京都での確たる立ち位置を感じる

ホサホサヘアにジャーシルックス。インパクト大のYouth Recordsの庄司信也さんもゲストDJ。「浮き沈みが激しいファッション界で10年はスゴい！俺もガンバル！」



「二条の高倉にとんでもない店ができ、街なかになんか声を聞いてから、早10年である。その店こそが初代の「FACTORY」。以来、それは順調に京都ファッション界を牽引してきた同社の祝10周年である。と言ってもピンとこない方もおられるだろう。「UNDERCOVER」[「NEIGHBORHOOD」]「NUMBER (N) LINE」など、とんでもないブランドを京都で一手に扱い、市内数店舗を擁する会社である。そう、現在は三条東洞院の角とか、駄屋町蛸薬師とか、あの店をやっている会社です。」

同社は常に流行り廃りとは二歩三歩と離れた場所にあった。孤高の存在というほどストイックではなく、かといってデパートに出店するほど身近でもない。代表である加治啓太郎さんは言う。「基本的にカッコイイを求める気持ちは変わりません」。東京から京都に凱旋し、それまで知らなかった人間関係、代表として経営

に関わる問題、清濁併せ呑んだ10年でもあったろう。だがその10年を貫き通せたのも、この信念があったからだ。「10年目ですが、人生ゲームで言うところの『振り出しに戻っちゃった』感です。ね。信念は変わらないが、それを表現するプロセスは、この10年、面白いほど一貫していない。「いま良いなと思ってる」ことでも、ちょっとした出会いやきっかけ、数時間後には意見が正反対になってしまふ、ちょっと困った性格なんです(笑)。転がり続けて進んでいるのか逸れているのか、本人以外には、いや本人にも解らないのかもしれない。それでも「後ろに進んでないことだけは宣言できる」と言い切れるのが強いところである。

過去を振り返るばかりでは華はない。この先に、どんな景色を見ているのか。「そろそろ溜まってきた『やりたいことミッター』をハズす時期。そんなことを考えてたのは、確か独立前でした(笑)。

テーマはずっと、衣食住です。東京で時代を築いた一人のショップスタッフから、京都で経営者の道に入って10年、そこで明かされた「ライフコディネイト」というテーマ。

服を着て、ものを食べて、そして家に住む。人間として最も根本的なツールと行動。「FACTORY」が提案する「衣」以外のパートとは、いつ、どんな形で我々の前に現れるのか。

「ホクにはセンスがないんです。それに対してコンプレックスをずっと持っている。それは「天才タイプではない」という意味だろう。だから逡巡し、試行を繰り返す。今、人生ゲームのボードのマス目は「振り出しに戻った」のではなく、きつと「今までとは違う人生ゲームのスタート」に変わっているのだ。曲がりくねった「加治コース」はまだまだ「UNDER CONSTRUCTION」だから、そのサプライズ、期待しております。



祝10年を迎え、現在はほとんど裏方稼業のFACTORY社長、加治啓太郎さん。ちなみにゴルフと、最近ブログにご熱心。締め切り催促が凄いとの声が執筆者から多数...

UNDERCOVER、NEIGHBORHOOD、NUMBER (N) LINEのネーム入り10周年限定Tシャツを販売。1枚9000円のシロモノが飛ぶように売れるところが、単なる記念Tとは絶対的に違うところ

關聡志建築設計事務所の關さん(左)とともに現れたのは美術品などを扱うメディアショップ齊藤さん(中)。「加治社長って、アートが好きなんです。僕もブログ書かされてます...」

加治さんも所属する「木屋町ゴルフ倶楽部」の長男坊でもあるアライ企画・荒井社長から一言。「加治くんって、朝も昼も夜も、ずっと同じテンションだよな〜。何でいつも同じなの〜?」

スタイリストの伊賀大介さんはプライベートでも加治社長とはお付き合いが。「服の話より、いつもプロレスの話ばかり(笑)。新日の話で盛り上がってます」

